

逐日擴大之，一九六四能業

憂慮する、今冬の木炭状況

木炭生産の督撫行脚を續けてゐるが、能率は一日にあがらない。十圓の損失となり一籠七十俵のこの不振の原因として製炭業者は公定價格の安過ぎることを指摘して急速な値上がりを要望してゐる。現在木炭一俵の生産者價格は十三圓五十錢で木炭の一俵に要する木代は十四圓、炭代一俵業決行も日を追ふて擴大されん二圓五十錢、繩代一圓で計十三圓十錢を以て十三圓十五錢で合併すると燒賣、伐木代等を合せて損失をすることになりそれがために郡下の各山元では一齊休業に入り断り切して郡下全製炭業者の能率を低下せしめようとしてゐる。

喜べ!! 味噌醤油増配
お約束通り十一月分から
主食の増配に伴ふ調味料の増配 飯塚新四郎
は市民待望の的であつたが市町内會長側からも
給誤では十一月分から實施するを選任することにな
事になり目下不足分を申請中で
あるが入荷と共に左記數量で即
給する、新配給量は醤油一人二
合五勺、味噌百勺である
小名濱町では漁業會
歩金及ぶ奨励金

小名濱町では既報の如く故小野平野長の頌徳碑を建設することになり建碑委員に左の諸氏を挙げたが、場所は小名濱港を一時に見渡される港橋々畔乃至漁業會側附近とする豫定となつてゐる。

野崎貞行、佐藤眞吾、鈴木治作、伊藤三男、小野直千賀、

飛ぶやうな
市 の 壽

販賣所好評
課長柳澤氏並に早川主任が來平
全國にさきがけた市販賣所の成
績を観察した
酒販賣所好評
廿八日から三日間
市十一月分のお酒配給はビ

日雇労務關係 業者の懇談會

四倉町仲町地先海岸へ二十五
羽七時頃鳳呂敷包一個が落さ
てゐるのを漁夫が発見相出た
中には前掛、ズボン、モント
各一枚と大阪寫眞館宛に一通
べ兄さんへとした封をしないで
六様の手紙一通あつたが氏名も
所もなく、手紙の模様では女
て生らしく、四倉警察署派出所
者は投げ自殺したものとみて目
角検索中である

◇入院應需平市南町五十
織田歯科醫
齋藤醫
れ
日
下
學
で
書
任
主
▼
主食の増配に伴つて味喰
油も十一月分から増配され
市民にとつては大きな福音
木炭を焼けば一盃で最低

お芝居の期間

演 場

卷之三

金澤勉
一、馬上喜二、高木嘉

委員決定

主食配給委員として矢
張向ふに就いた
武蔵(湯本坑)大友(勿來
田(好間地區)一條(内郷
五十嵐(赤井地區)
表委員 潤な配

元輸出 生産價格が上り打つ手はない」とある
例年より寒い冬といふ
内早く何等かの手を打つ
たいもの、政府のお仕事もソシゼリしてゐる氣
送るが

けの外に
はれる折
つて貰ひ
事はいつ
付葉でも
安易に
御婦人も
御會合の出
マルト

七食電 來る

